

# 地 域 経 済 動 向

平成 22 年 5 月 31 日



内閣府政策統括官室  
(経済財政分析担当)

## 目 次

- 1 概況
- 2 トピック
- 3 地域別の動向
  - (1) 北海道
  - (2) 東北
  - (3) 北関東
  - (4) 南関東
  - (5) 東海
  - (6) 北陸
  - (7) 近畿
  - (8) 中国
  - (9) 四国
  - (10) 九州
  - (11) 沖縄
- 4 主要指標
- 5 参考資料

# 1 概況

## (1) 各地域の景況判断



	・維持している - 北関東、南関東、東海
	・維持しの動きがみられる - 北海道、東北、北陸、近畿、中国、九州
	・維持しの動きが緩やかになっている - 四国
	・下げ止まっている - 沖縄

### 地域区分

地域	都道府県
北海道	北海道
東北	青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島、新潟
北関東	茨城、栃木、群馬、山梨、長野
南関東	埼玉、千葉、東京、神奈川
東海	静岡、岐阜、愛知、三重
北陸	富山、石川、福井
近畿	滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
中国	鳥取、島根、岡山、広島、山口
四国	徳島、香川、愛媛、高知
九州	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島
沖縄	沖縄

以下、特に断りがない限り、地域区分は上記のとおりとする。

## 今回調査（平成22年5月）の前回調査（平成22年2月）との比較

上方に変更した地域・・・3地域（北関東、南関東、沖縄）

下方に変更した地域・・・1地域（四国）

各地域の景況判断は、北関東、南関東では個人消費、雇用などを、沖縄では、観光、雇用などを理由として、それぞれ上方修正となった。

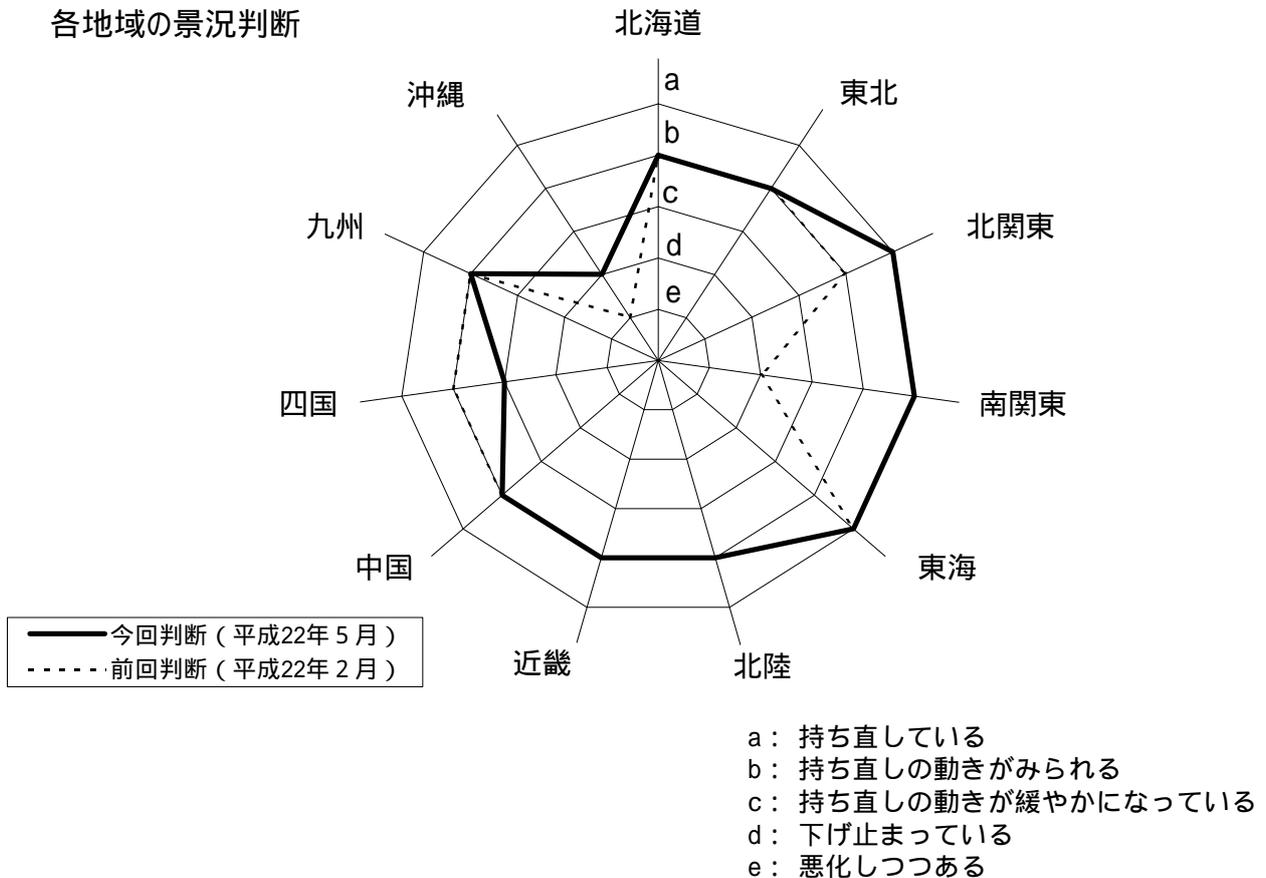
四国では、鉱工業生産などを理由として、下方修正となった。

その他7地域（北海道、東北、東海、北陸、近畿、中国、九州）の景況判断については、前回調査（平成22年2月）と同じである。

各地域の景況判断	北海道	東北	北関東	南関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
持ち直している											
持ち直しの動きがみられる											
持ち直しの動きが緩やかになっている											
下げ止まっている											
悪化しつつある											

（備考） は、今回調査の判断。 は、前回調査（平成22年2月）の判断。

### 各地域の景況判断



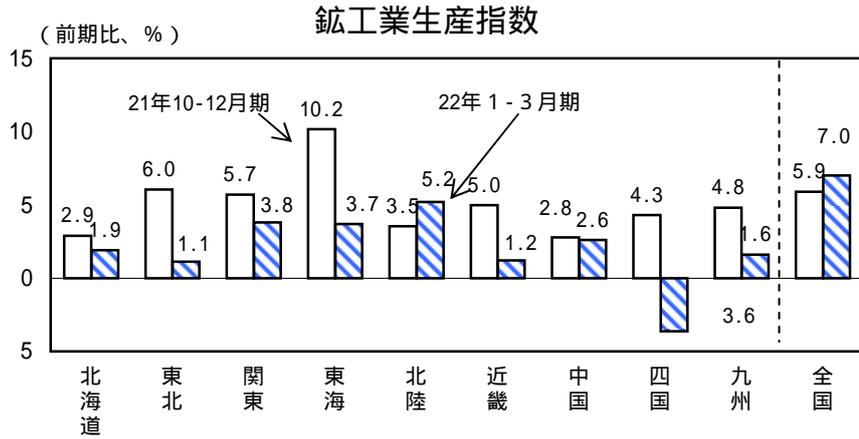
(2) 各地域の景況判断と主要変更点

		北海道	東北	北関東	南関東	東海
景況判断	2月 (前回)	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	下げ止まっている	持ち直している
	5月 (今回)	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	持ち直している	持ち直している
		⇒	⇒	↑	↑	⇒
鉱工業生産 (沖縄は観光)	2月	緩やかに持ち直している	持ち直している	持ち直している		増加している
	5月	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	持ち直している		緩やかに増加している
個人消費	2月	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	おおむね横ばいとなっている	持ち直しの動きがみられる
	5月	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	持ち直している	持ち直している
雇用情勢	2月	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	下げ止まりつつある
	5月	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる

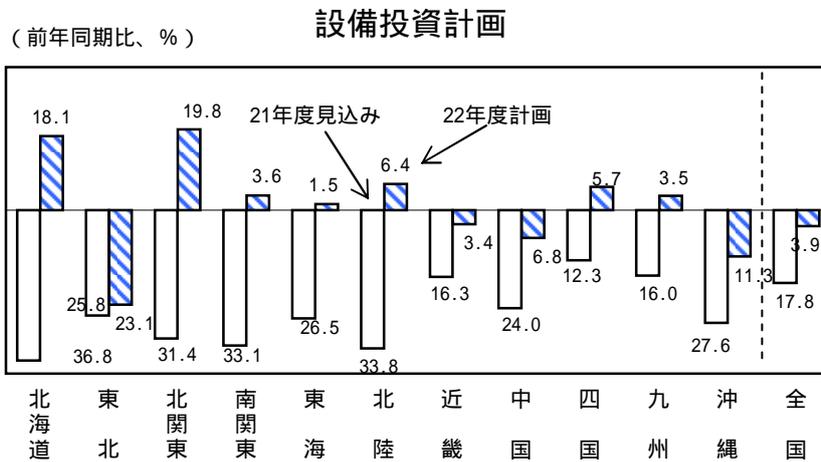
(注) ↑は上方に判断を変更、⇒は変更なし、⇓は下方に判断を変更。

北 陸	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	悪化しつつある
持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きが緩やかになっている	持ち直しの動きがみられる	下げ止まっている
⇔	⇔	⇔	↓	⇔	↑
緩やかに持ち直している	持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	持ち直している	弱い動きとなっている
持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、一服感がみられる	緩やかに持ち直している	下げ止まっている
持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	おおむね横ばいとなっている
持ち直しの動きがみられる	持ち直している	持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きがみられる	持ち直している	おおむね横ばいとなっている
下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	極めて厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている
持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	持ち直しの動きがみられる	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	極めて厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある

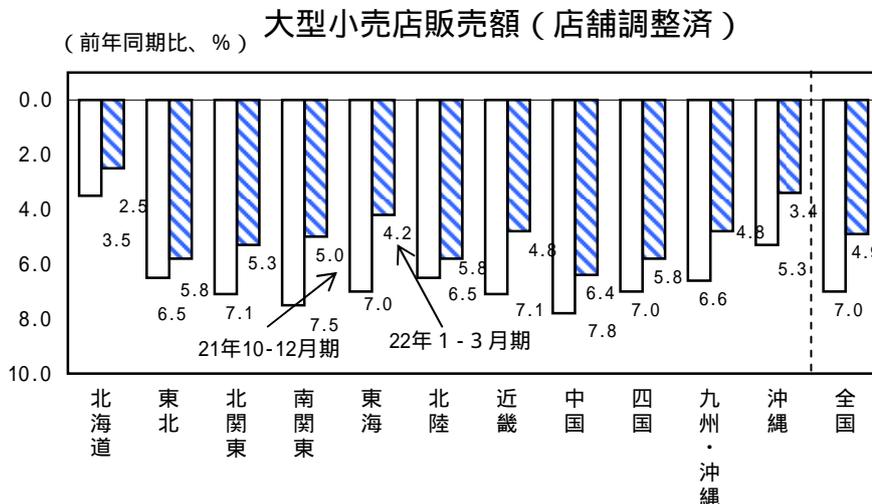
### (3) 主要指標の動き



- (備考) 1. 経済産業省、各経済産業局、中部経済産業局電力・ガス事業北陸支局、により作成。  
 22年1-3月期は速報値。なお、全国、東海は確報値。  
 2. 地域区分はB(81ページ参考資料(1)参照)。  
 3. 全国、東海、近畿は、22年の年間補正が実施済みの数値。



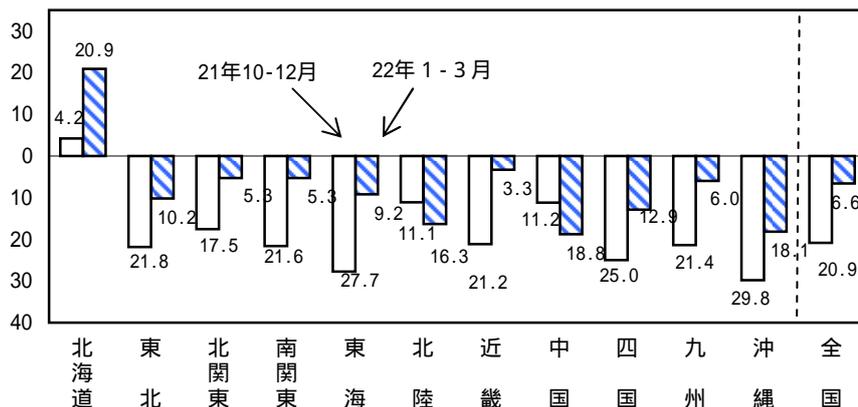
- (備考) 日本銀行各支店「企業短期経済観測調査」(22年4月)により作成。  
 ただし、北関東は日本銀行前橋支店管内(設備投資額にソフトウェアを含む)、  
 南関東は神奈川県。



- (備考) 1. 経済産業省「商業販売統計」により作成。  
 2. 北関東は、新潟、静岡の2県を含む関東経済産業局「東京圏以外」。南関東は同「東京圏」。  
 東海は、愛知、岐阜、三重の3県。地域区分はB(81ページ参考資料(1)参照)。  
 3. 北関東、南関東、東海、北陸の22年1-3月期の数値は速報値。

## 新設住宅着工戸数

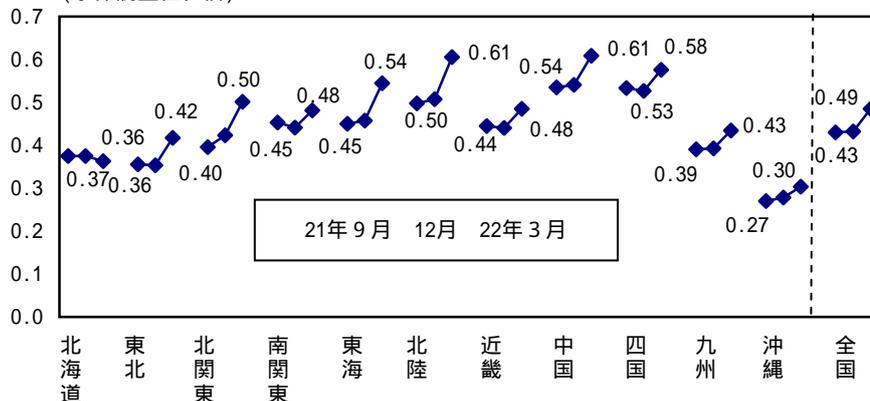
(前年同期比、%)



(備考) 国土交通省「建築着工統計」により作成。

## 有効求人倍率

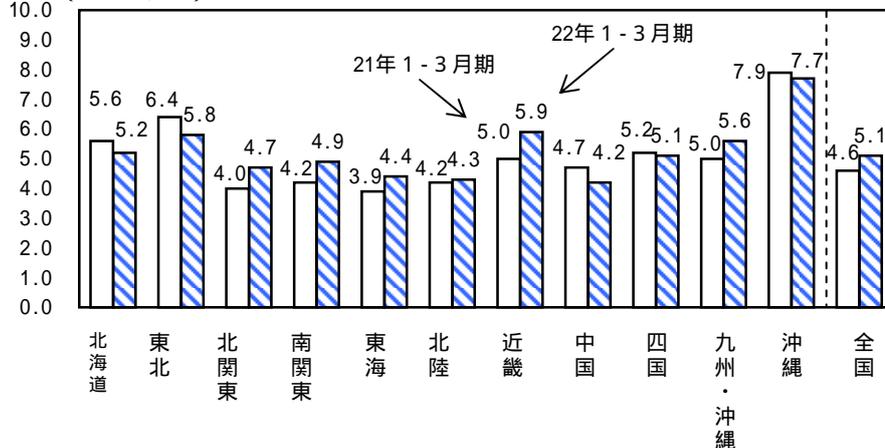
(季節調整値、倍)



(備考) 1. 厚生労働省「一般職業紹介状況」により作成。  
2. すべての地域でパートタイムを含む。

## 完全失業率

(原数値、%)



(備考) 1. 総務省「労働力調査」、沖縄県「労働力調査」により作成。  
2. 地域区分はC(81ページ参考資料(1)参照)。

## 2 トピック

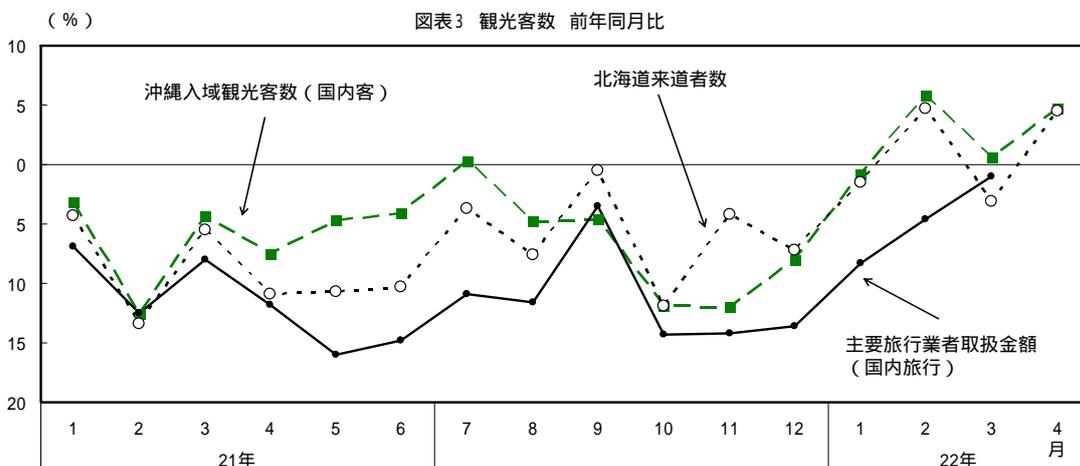
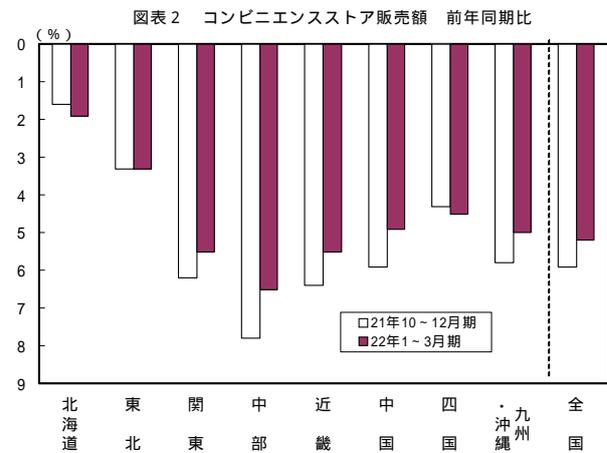
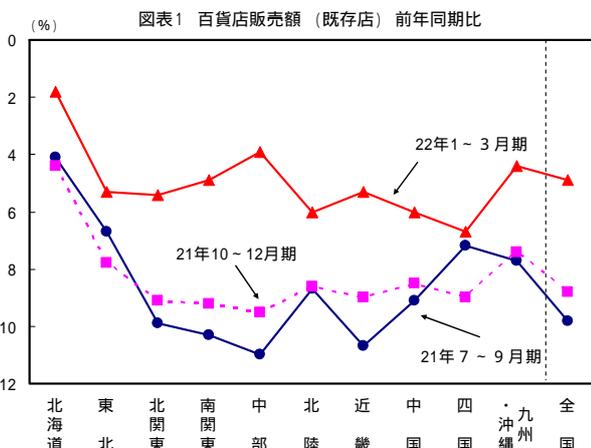
### <トピック1> 百貨店販売や旅行動向からもうかがえる個人消費の持ち直し

家電エコポイント制度やエコカー減税・補助金といった政策効果により、平成21年秋以降、各地域において、家電売上高や乗用車販売台数が前年を大きく上回る状況が続いてきた。一方、百貨店販売額は、リーマン・ショック以降の消費マインドの冷え込みにより大幅に減少し、三大都市圏（関東・中部・近畿）では、21年7～9月期に前年比の減少幅が2桁となり、10～12月期にも減少幅が9%超で推移するなど、非常に厳しい状況が続いてきた（図表1）。しかし、22年1～3月期には、全ての地域で減少幅の縮小がみられ、なかでも三大都市圏の縮小幅が大きかった。「景気ウォッチャー調査」（22年4月調査）でも、百貨店のウォッチャーから、「低温や天候不順の影響で衣料品が苦戦するものの、来客者数、客単価共に上向いている（東北）」、「低迷が続いていた衣料品の販売量が、前年並み近くまで回復してきている（南関東）」といった声が寄せられている。

コンビニエンスストア販売額においても、22年1～3月期に多くの地域において、前年比の減少幅が縮小した（図表2）。

旅行関連の動向をみると、沖縄への入域観光客数（国内客）や北海道への来道者数は、21年10～12月期には大きく落ち込んでいたものの、22年2月には、沖縄への入域観光客数（国内客）が7か月ぶりに、北海道への来道者数（注）が21か月ぶりに前年を上回った。このように、個人消費の復調に向けた動きは、小売関連のみならず、旅行関連でも現れ始めている。こうした観光分野での復調が、地域経済にプラスの影響を及ぼすことが期待される。

（注）北海道への来道者数とは、鉄道、船、飛行機（国内空港発の日本の航空会社の定期便）で北海道に来た人数であり、観光客のほか、出張者等を含む。



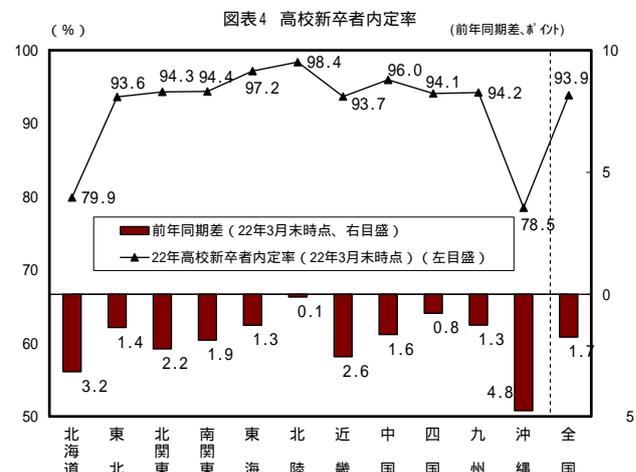
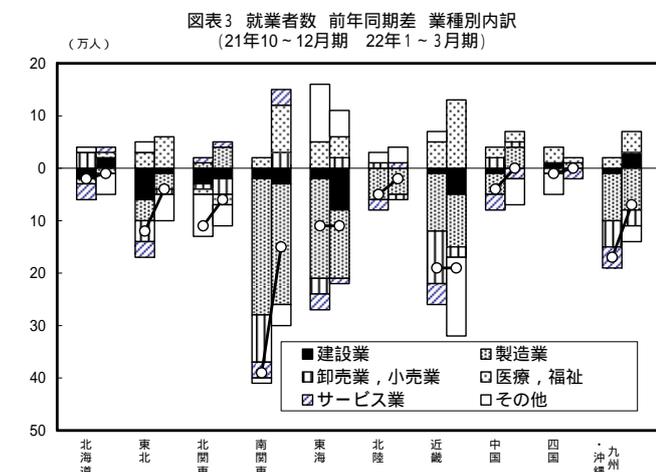
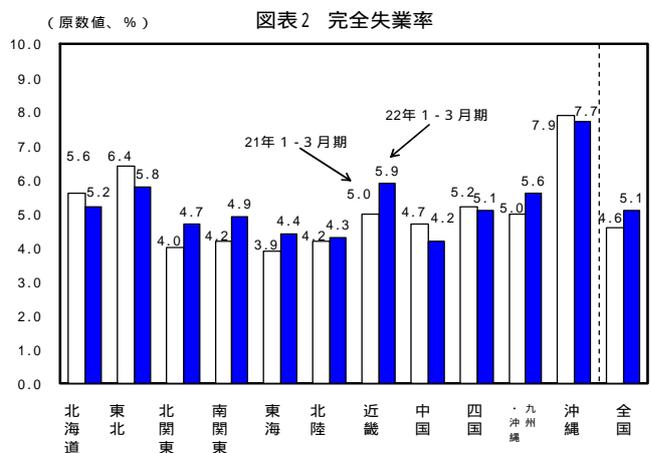
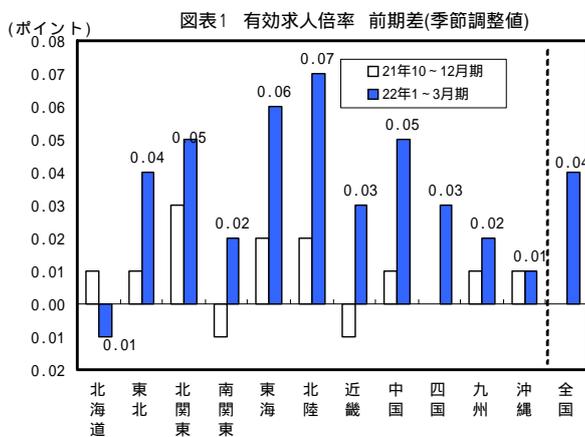
（出所）図表1、2：経済産業省「商業販売統計」、図表3：観光庁「主要旅行業者の旅行取扱状況速報」、社団法人 北海道観光振興機構「来道者調査」、沖縄県「入域観光客統計概況」より作成。

<トピック2> 多くの地域でみられる雇用における持ち直しの動き

有効求人倍率は、全ての地域において、依然として1倍を大きく下回っているものの、21年10～12月期から22年1～3月期にかけて、製造業の求人の増加等により、北関東、東海、北陸、中国を中心として上昇幅が拡大し、南関東や近畿では、低下から上昇に転じた(図表1)(注1)。完全失業率についても、ほぼ半数の地域で依然として5%台を上回り、厳しい状況は続いているものの、22年1～3月期において、北海道、東北、中国、四国では前年同期に比べて低下している(図表2)。さらに、就業者数についても、22年1～3月期には、中国と四国で前年比横ばいとなり、東北、南関東、九州・沖縄等の多くの地域で前期に比べて減少幅が縮小している。これまで就業者数の減少に大きく寄与してきた製造業が、中国では減少から増加に転じ、北関東では増加幅を拡大させている。また、南関東、東海でもマイナスの寄与を縮小させている。各地における鉱工業生産の持ち直しが雇用情勢の改善にもつながってきているものとみられる(図表3)。

他方、22年春の高校新卒者の就職内定状況(22年3月末現在)をみると、全ての地域において、前年を下回り、新卒者の就職の厳しさがうかがえる。特に、北海道と沖縄では、就職内定率(注2)が80%を下回るとともに、前年からの低下幅も他地域に比べ大きい(図表4)。雇用情勢について、多くの地域において、持ち直しの動きがみられるものの、若年雇用等の動向については引き続き注視する必要がある。

(注)1. 北海道の有効求人倍率の動きには、2007年末の北海道労働局の求人数の計上方法変更も影響しているとみられる。  
2. 就職内定率とは、求職者数(学校又は公共職業安定所の紹介を希望する者)に占める就職内定者数の比率。



(出所)図表1:厚生労働省「一般職業紹介状況」、図表2、3:総務省「労働力調査」、図表4:厚生労働省「平成21年度高校・中学新卒者の就職内定状況等(平成22年3月末現在)」により作成。  
(注)図表4の地域別の値は、都道府県別の値を用いて、地域区分Aに併せて再計算した。